Trinity

キズナエピソード\_大鳥丹\_06

------------------------------------------

//ヴィジュアルノベル形式開始

//背景:とびお家玄関

丹は玄関の前にたたずんでいる。

祈るように胸元にある手は、

時折呼び鈴に伸びては、押さずに戻ることを繰り返していた。

「…………！」

一度頭に手を触れさせた丹は、

震える指先で呼び鈴を押した。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//背景:とびお家玄関

//♪ピンポン→ガチャッ的なSE

［とびお］

「！　丹……！

大丈夫か？」

［丹］

（どうしよう……まず、なんて言えば……？）

［とびお］

「とりあえず入れよ、

温かいコーヒー淹れようか？」

［丹］

（だめ……。

これ以上とびおくんの優しさに甘えてしまったら……。

何か……何か言わないと……）

［とびお］

「ほら、風邪引くから……」

［とびお］

「おい、丹？」

［丹］

「…………」

［丹］

（とびおくん……困った顔をしてる。

やっぱりだめ……！　ごめんねって……ありがとうって……

また一緒にいたいって……伝えるだけなのに……）

［丹］

（どうしてこんなに言葉が出てこないの……？）

=========================スチルカットシーンB開始=========================

［丹］

「……ぐすっ……」

［とびお］

うつむいた丹からすすり泣く声が聞こえ、。

涙の雫が床に落ちた。

［とびお］

何かを伝えようとしているが、

感情が溢れて、言葉が出ない……。

そんな様子の丹を、俺はただじっと見つめていた。

［丹］

「……う……ぐすっ……」

［とびお］

俺は何も言わず、丹の言葉を待つ。

穏やかな時間が流れていた。

［とびお］

しばらくして顔を上げた丹の頬は涙に濡れていた。

［丹］

「……好き」

［とびお］

散々迷った挙句、やっと絞り出したであろうその一言は

他のどんな言葉よりも雄弁に、丹の心を映し出していた。

その瞬間、俺たちは間違いなく、一つに繋がっていた。

=========================スチルカットシーンB終了=========================

［とびお］

「丹……」

［とびお］

俺は、丹を強く抱きしめてキスをした。

［丹］

「…………うん……」

［とびお］

少し乱暴だったが、丹は受け入れてくれた。

口を離し間近で丹を見ると、

安心したように微笑む顔がそこにあった。

//R版の場合ここにRシーン挿入

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//背景:白い部屋

そこで意識が覚醒した。

「……あんな可能性もあったのかもしれない」

俺はひとりごちて、白い空間を眺める。

大きなスクリーンに、丹との思い出を幻視する。

//次ページ

大人の女性の雰囲気を纏った丹。

一緒に遊んでいるときに、可愛い笑顔を見せる丹。

自分の気持ちに戸惑う丹。

そして、泣きながら気持ちを伝えてくれた丹。

……そのどれもが愛しかった。

//次ページ

丹を守りたい。

俺は心にそう誓った。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//6話END